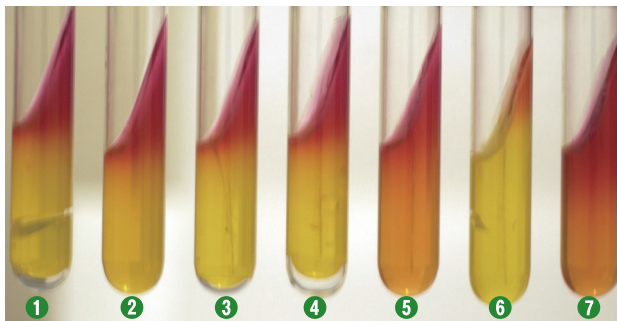


極東 CLIG寒天培地 極東 CLIG寒天生培地

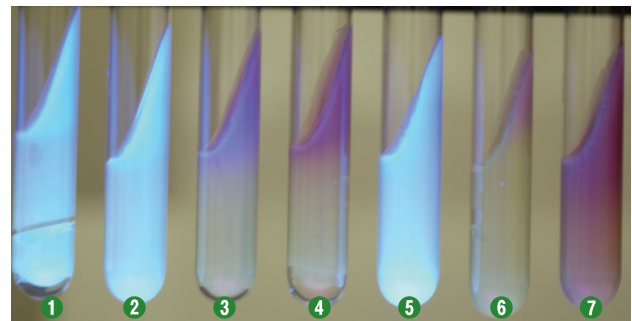
本培地は、衛生試験法・注解 2020、厚生労働省通知 食安監発 1120 第 1 号「腸管出血性大腸菌 O26、O103、O111、O121、O145 及び O157 の検査法について」(2014) に記載された培地です。複数の腸内細菌確認用培地を必要とせず、*Escherichia coli* の確認および、腸管出血性大腸菌 (Enterohemorrhagic *E. coli* : EHEC) O157 の鑑別が可能です。

高層部にて乳糖、斜面部にてセロビオースからの酸産生が確認できます。また、365 nm の紫外線を照射し、腸管出血性大腸菌 O157 との鑑別を行います。通常の *E. coli* は、MUG (4-メチルウンベリフェリル-β-D-グルクロニド) を加水分解する β-グルクロニダーゼ陽性のため、紫外線照射下で青色蛍光を示しますが、腸管出血性大腸菌 O157 は β-グルクロニダーゼ陰性のため、青色蛍光を示しません。

通常光照明



紫外線照射時



35°C, 24 時間, 好気培養

〈左から〉

- ① *Escherichia coli* ② *Escherichia coli* O26 ③ *Escherichia coli* O111 ④ *Escherichia coli* O157
⑤ *Escherichia coli* O121 ⑥ *Escherichia hermannii* ⑦ *Proteus mirabilis*

培地組成 (1,000 mL 当たり)

カゼインペプトン	7.5 g	乳糖	1.0 g
肉ペプトン	2.5 g	セロビオース	10.0 g
塩化ナトリウム	5.0 g	MUG	0.02 g
トリプトファン	0.1 g	寒天	14.9 g
フェノールレッド	0.025 g		pH 7.4±0.1

※典型的な組成を示しています。

製品概要

統一商品コード No.	製品名	包装	有効期間	貯法	備考
551-03401-1	極東 CLIG 寒天培地	85 g	1 年	室温	粉末培地
551-07521-2	極東 CLIG 寒天生培地	50 本	6 ヶ月	冷暗所 (2 ~ 10°C)	生培地

用法

①粉末培地(極東 CLIG寒天培地)の調製方法

本品41.0 gを精製水1,000 mLに加え加熱溶解後、小試験管に2.5～3.0 mL分注し、115℃、15分間高圧滅菌を行う。滅菌後半高層培地として固める。

②使用方法

分離したコロニーを白金線で本培地の高層部に穿刺、斜面部に画線し、35～37℃で18～24時間、好気条件下にて培養*します。培養後は、高層部、斜面部の色調を確認します。酸の産生が陽性ならば、培地色調は黄変します。次に、365 nm紫外線照射下で青色蛍光の有無を確認します。また、斜面部に発育した菌を用いて、インドールスポットテスト¹⁾やチトクロームオキシダーゼテスト²⁾等の実施も可能です。

*培養時は密栓状態にしないでください。

1) スポットインドール試薬を自家調製する場合は、濃塩酸 2 mLと精製水 18 mLを混合したのち、パラジメチルアミノシンナムアルデヒド 0.2 gを加えて溶解します。

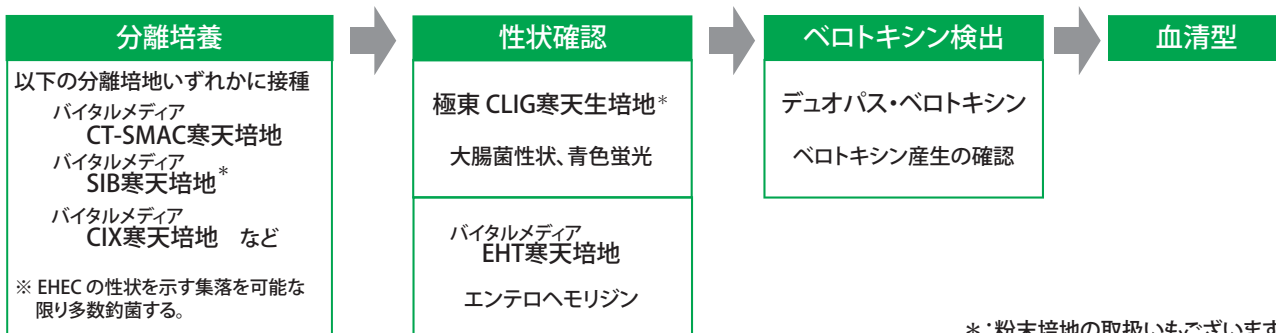
2) チトクロームオキシダーゼテスト：オキシダーゼ綿棒等により実施します。

判定

		EHEC O157:H7/ー	通常の <i>E. coli</i>	<i>E. hermannii</i>
酸産生	乳糖 (高層部)	+	+	+
	セロビオース (斜面部) * ¹	ー	ー	+
β-グルクロニダーゼ (MUG) * ²		ー	+	ー
インドール産生* ³		+	+	+
チトクロームオキシダーゼ		ー	ー	ー

* 1：抗O157血清に交差反応を示す*E. hermannii*の鑑別除外に有用です、* 2：365 nmの紫外線照射による、* 3：インドールスポットテストによる

使用例 (EHEC O157:H7/ーの培養検査フロー)



使用上および取扱い上の注意 ※以下の注意をよく読んでからご使用ください

- 微生物の取扱いに習熟した人の指導の下に、バイオハザード対策を実施した上で使用してください。
- 有効期限切れの製品は使用しないでください。
- 使用済みの培地は 121℃、30 分以上高圧蒸気滅菌を行い、速やかに廃棄してください。
- 廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理してください。
- (極東 CLIG 寒天生培地について)
- 冷蔵庫からの頻回な出し入れは性能の劣化を招きますので、極力お避けください。
- 本培地を使用する場合は、室温に戻してからご使用ください。
- 試験管に破損が認められるものは使用しないでください。
- 培地の保存は必ず冷暗所 (2～10℃) で、凍結ならびに乾燥しないようにしてください。